

平成26年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	港湾局港湾経営部整備計画課	要素事業所管課	港湾局港湾経営部整備計画課
----------	---------------	---------	---------------

1 計画の概要

計画の名称	利用しやすく安全で憩いとうるおのある港づくり (防災・安全)	計画の期間	平成22年度～ 平成26年度
計画の目標	利用者の利便性・安全性の向上及び防災・減災機能の強化を図るために、以下のことを実施する。 ①老朽化した港湾施設の改修 ②港湾施設の長寿命化に向けた維持管理計画の策定 ③老朽化した港湾緑地施設の補修 ④臨港道路のリダンダンシー確保 ⑤老朽化した埠頭内道路の改良 ⑥海岸保全施設の改良 ⑦津波高潮避難誘導看板の整備 ⑧災害時における輸送路の確保		
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した港湾施設の機能維持</li> <li>海底トンネルの改良：大規模地震時における緊急物資供給可能人口の確保</li> <li>千鳥町2号：係留施設及び保安施設の老朽化等による岸壁休止率を6.9%から3.4%へ削減</li> <li>港湾施設の延命化：23施設(iv以上の部位)について維持管理システムを用いて構築される補修計画による補修工事の実施率100%の達成。</li> <li>長寿命化計画策定：15施設についての維持管理計画策定率の100%の達成。</li> <li>緑地施設の補修：公園施設の補修工事実施率を0%から100%の達成。</li> <li>臨港道路のリダンダンシー確保：臨港道路東扇島水江町線(直轄事業)の整備に伴う現道の代替機能の確保</li> <li>老朽化した埠頭内道路の改良：道路の老朽化等による走行支障の改善</li> <li>港湾管理者情報システム：電子申請手続きの割合50%の達成。</li> <li>海岸保全施設の改良：地震発生時の津波被害の防止(津波到達時間内の陸閉鎖)</li> <li>津波高潮避難誘導看板の整備：臨海部の各島で指定された津波避難ビルへの避難誘導</li> <li>災害時における輸送路の確保：液状化発生に伴う埋設物付近に発生する段差による走行支障の改善</li> </ul>		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	港湾施設の機能維持及び延命化や津波高潮による被害の軽減を図るために、要素事業(臨港道路の改良、埠頭内道路の改良、岸壁改良(東扇島護岸)、緊急物資等輸送路の改良、海岸保全施設の改良、津波高潮避難誘導看板の整備、案内誘導看板の整備、油流出防止施設の整備、)の追加等を行った。		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況(概要)

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(評価時) (千円)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初 (千円)	評価時 (千円)			
A (基幹事業)	海底トンネルの改良 千鳥町2号岸壁の改良 臨港道路の改良 埠頭内道路の改良 岸壁改良(東扇島1号、2号) 岸壁改良(東扇島21号～31号) 岸壁改良(東扇島3号、4号) 岸壁改良(東扇島3号～9号) 岸壁改良(千鳥町4号、6号) 岸壁改良(東扇島護岸) 川崎港長寿命化計画策定 港湾緑地等施設の改良 川崎港港湾管理者情報システム 緊急物資等輸送路の改良 海岸保全施設の改良 津波高潮避難誘導看板の整備	7,552,200	7,911,600	5,892,933	74.5%	(主な完成事業) 千鳥町2号岸壁の改良 岸壁改良(東扇島3号、4号) 岸壁改良(東扇島3号～9号) 岸壁改良(千鳥町4号、6号) 川崎港長寿命化計画策定 川崎港港湾管理者情報システム 津波高潮避難誘導看板の整備
B (関連社会資本整備事業)						
C (効果促進事業)	川崎港港湾保安システムの維持補修 案内誘導看板の整備 油流出防止施設の整備 川崎港維持管理システムの開発	416,000	716,000	433,288	60.5%	(主な完成事業) 案内誘導看板の整備 川崎港維持管理システムの開発
全体事業費(A+B+C)		7,968,000	8,627,600	6,326,221	73.3%	
				【財源内訳】 国:3,019,404 市:3,306,817		

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	海底トンネルの改良：緊急物資供給可能人口			
定義及び算定式	(定義) 緊急物資供給可能人口について、耐震バース取扱能力から緊急物資輸送量と対象人口を算出する。 (算定式) $\text{緊急物資供給可能人口} = \text{既設耐震岸壁延長} \times \text{mあたり岸壁取扱能力} / \text{1人日あたり必要物資量}$			
その指標を設定した理由	海底トンネルの通行機能確保に関する指標として、緊急物資供給可能人口を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
—	—	約1万4千人	約1万4千人	達成
目標達成状況に対する所見	トンネル本体の耐震補強や液状化対策による耐震性の向上、さらにトンネル及び換気所等の躯体や設備の老朽化対策の実施により、目標を達成することができた。			
将来の見込み	今後も引き続き、トンネル機能の維持及び施設の延命化等に向けて、改良工事を推進していく。			

評価指標の名称、内容	千鳥町2号岸壁の改良：休止率			
定義及び算定式	(定義) 休止率について、係留施設及び保安施設の老朽化等による休止施設数が、既設係留施設全体に占める割合を算出する。 (算定式) $\text{休止率} = (\text{休止係留施設数} / \text{既設全係留施設数}) * 100$			
その指標を設定した理由	港湾荷役機能の確保に関する指標として、休止率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
6.9%	—	3.4%	0%	達成(見込み)
目標達成状況に対する所見	本事業は、現在、鋭意施工中であるが、平成26年度に完了する予定で、目標を達成する見込みである。			
将来の見込み	今後は、施設の機能維持及び施設の延命化に向けて、適切に維持管理を実施していく。			

評価指標の名称、内容	臨港道路の改良：改良工事の達成率			
定義及び算定式	(定義) 現道の改良工事の達成率について、改良工事終了延長が、全体延長に占める割合を算出する。 (算定式) $\text{達成率} = (\text{改良工事終了延長} / \text{全体延長}) * 100$			
その指標を設定した理由	改良工事の進捗に関する指標として、達成率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
0%	27.0%	43.0%	18.2%	未達成
目標達成状況に対する所見	本事業は、国直轄の臨港道路東扇島水江町線整備事業の進捗に併せて、実施することとなるが、東日本大震災の影響を受けて、設計を見直したことにより、遅れが生じており、目標の達成に至らなかった。			
将来の見込み	今後も引き続き、国直轄事業と調整を図りながら、改良工事を推進し、現道の代替機能を確保していく。			

評価指標の名称、内容	埠頭内道路の改良：改良工事の達成率			
定義及び算定式	(定義) 現道の改良工事の達成率について、改良工事終了事業費が、全体事業費に占める割合を算出する。 (算定式) 達成率＝(改良工事終了事業費／全体事業費)＊１００			
その指標を設定した理由	改良工事の進捗に関する指標として、達成率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定(見込))	目標達成状況
—	０％	２１．０％	２．６％	未達成
目標達成状況に対する所見	限られた厳しい予算状況において、計画内の他の重点事業への予算配分等の結果、目標の達成に至らなかったが、改良工事に向けた実施設計を実施することができた。			
将来の見込み	今後も引き続き、関係者と調整を図りながら、改良工事を推進していく。			

評価指標の名称、内容	港湾施設の延命化：補修工事の実施率			
定義及び算定式	(定義) 補修工事の実施率について、補修工事終了施設数が、全体施設数に占める割合を算出する。 (算定式) 実施率＝(補修工事終了施設数／全体施設数)＊１００			
その指標を設定した理由	補修工事の進捗に関する指標として、実施率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定(見込))	目標達成状況
０％	—	１００％	８７．０％	未達成
目標達成状況に対する所見	限られた厳しい予算状況において、目標の達成に至らなかったが、劣化状況等を考慮して優先順位をつけて、既存施設の延命化に向けた改良工事(防食等)を実施することができた。			
将来の見込み	今後も引き続き、関係者と調整を図りながら、改良工事を推進し、既存施設の延命化を図っていく。			

評価指標の名称、内容	長寿命化計画策定：維持管理計画の策定率			
定義及び算定式	(定義) 維持管理計画策定率について、策定施設数が、全体施設数に占める割合を算出する。 (算定式) 策定率＝(策定施設数／全体施設数)＊１００			
その指標を設定した理由	維持管理計画策定の進捗に関する指標として、策定率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
０％	１００％	—	１００％	達成
目標達成状況に対する所見	係留施設等の１５施設について、点検診断の実施及び維持管理計画の策定により、目標を達成することができた。			
将来の見込み	今後は、当該維持管理計画に基づき、施設の延命化に向けて、適切に維持管理を実施していく。			

評価指標の名称、内容	緑地施設の補修：補修工事の達成率			
定義及び算定式	(定義) 補修工事の実施率について、補修工事終了施設数が、全体施設数に占める割合を算出する。 (算定式) 実施率＝(補修工事終了施設数／全体施設数)＊１００			
その指標を設定した理由	補修工事の進捗に関する指標として、実施率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定(見込))	目標達成状況
０％	－	１００％	０％	未達成
目標達成状況に対する所見	限られた厳しい予算状況において、計画内の他の重点事業への予算配分等の結果、目標の達成に至らなかった。(主な内容である公園の照明設備については、当該事業の初年度である平成２１年度に実施している。)			
将来の見込み	今後は、当該事業の内容や実施方法等について、検討し、状況に応じて工事を実施していく。			

評価指標の名称、内容	港湾管理者情報システム：電子申請手続きの割合			
定義及び算定式	(定義) 電子申請手続きの割合について、電子申請手続き件数が、全体の申請手続き件数に占める割合を算出する。 (算定式) 電子申請手続きの割合＝(電子申請手続き件数／全体の申請手続き件数)＊１００			
その指標を設定した理由	電子申請手続の利用に関する指標として、電子申請手続の割合を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定(見込))	目標達成状況
３０％	４０％	５０％	３１．０％	未達成(見込み) (集計が年度単位のため実績値はH25年度)
目標達成状況に対する所見	一部の手続において電子申請が十分に定着していないため、全体として目標の達成には至らなかったが、手続によっては目標値である電子申請率５０％を上回っており、申請者の利便性を向上させている。			
将来の見込み	電子申請率の低い手続については、FAX申請に慣れている事業者が多いことが考えられますが、今後は、申請者に利用方法を広報する等の取組を行い、電子申請の利用を促進する。			

評価指標の名称、内容	海岸保全施設の改良：改良工事の達成率			
定義及び算定式	(定義) 改良工事の達成率について、改良工事終了施設数が、全体施設数に占める割合を算出する。 (算定式) 達成率＝(改良工事終了施設数／全体施設数)＊１００			
その指標を設定した理由	改良工事の進捗に関する指標として、達成率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定(見込))	目標達成状況
－	３．３％	３３．０％	１６．７％	未達成
目標達成状況に対する所見	当該施設に隣接する地権者との調整、国や県の動向により、津波等の設計条件の設定に不測の時間を要したことから、目標の達成に至らなかったが、調整が整った施設から順次、改良工事を実施することができた。			
将来の見込み	今後も引き続き、改良工事を推進し、地震発生時の津波被害の防止を図っていく。			

評価指標の名称、内容	津波高潮避難誘導看板の整備：設置個数の達成率			
定義及び算定式	(定義) 津波高潮避難誘導看板の整備について、設置終了施設が、全体施設に占める割合を算出する。 (算定式) 設置個数の達成率＝(設置工事終了施設数／全体施設数)＊100			
その指標を設定した理由	看板設置の進捗に関する指標として、達成率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
—	—	100.0%	100.0%	達成
目標達成状況に対する所見	津波高潮避難誘導看板の整備について、設置場所等を十分に検討して設置したことにより、目標を達成することができた。			
将来の見込み	今後は、適切に維持管理を実施していく。			

評価指標の名称、内容	緊急物資等輸送路の改良：改良工事の達成率			
定義及び算定式	(定義) 改良工事の達成率について、改良工事終了事業費が、全体事業費に占める割合を算出する。 (算定式) 改良の達成率＝(改良工事終了事業費／全体事業費)＊100			
その指標を設定した理由	改良工事の進捗に関する指標として、達成率を設定した。			
当初現況値(H22)	中間目標値(H24)	最終目標値(H26)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
—	—	9.0%	9.0%	達成(見込み)
目標達成状況に対する所見	緊急物資輸送路において、液状化発生に伴う埋設物付近に発生する段差による走行支障の改善対策に向けた実施設計の実施により、目標を達成する見込みである。			
将来の見込み	今後も引き続き、改良工事を推進し、液状化発生に伴う埋設物付近に発生する段差による走行支障の改善を図っていく。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	劣化部補修工事や防食工事等による効果 【海底トンネルの改良、港湾施設の延命化】
定義及び算定式	老朽化に起因する海底トンネルや係留施設における事故発生件数
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	海底トンネル等の機能について、効果を表す指標として、老朽化に起因する事故発生件数を設定した。
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	計画期間中において、老朽化に起因する海底トンネルや係留施設における事故発生件数ゼロを達成した。

評価指標の名称、内容	燃料保管庫設置による効果 【海底トンネルの改良】
定義及び算定式	非常時におけるトンネル設備の継続稼働の可能時間
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	非常時におけるトンネル機能について、効果を表す指標として、トンネル設備の継続稼働の可能時間を設定した。
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	非常時におけるトンネル設備の継続稼働の可能時間について、12時間から3日へ延長することができた。

評価指標の名称、内容	液状化対策工事等の実施による効果 【海底トンネルの改良】
定義及び算定式	非常時におけるトンネルの通行機能
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	非常時におけるトンネルの機能について、効果を表す指標として、トンネルの通行機能を設定した。
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	東日本大震災時に、首都高速湾岸線が通行止めとなった状況において、東扇島から川崎市街地への唯一の連絡路として、機能を果たした。

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	<p>○意見募集：川崎港を利用される皆様を対象にアンケート調査を実施</p> <p>○調査内容：事業の満足度等について、アンケート調査を実施</p> <p>①老朽化した港湾施設の機能維持 ②臨港道路のリダンダンシーの確保</p> <p>③老朽化した埠頭内道路の改良 ④港湾管理者情報システム</p> <p>⑤海岸保全施設の改良、 ⑥津波高潮避難誘導看板の整備</p> <p>⑦災害時における輸送路の確保</p> <p>○公開場所：各区役所、川崎情報プラザ、市のホームページ、港湾局整備計画課（川崎駅前タワー・リバービル20階）、港湾局港湾管理課（川崎マリエン）</p> <p>○手 法：担当課への意見書（アンケート）の持参、郵送、FAXによる提出</p> <p>○実施期間：9月1日（月）～9月30日（火）</p>
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	<p>事業の満足度及び意見等について、4件寄せられ、その結果は以下のとおりだった。</p> <p>○まだまだ老朽化している施設があるので、継続して整備してほしい。</p> <p>○首都直下型地震に備え、防災・減災対策を強化して欲しい。</p> <p>○臨港道路の改良については、災害発生時のためにも早急に確保してほしい。</p> <p>○津波高潮避難誘導看板の整備については、大きい看板だけでなく、子供からお年寄りまで分かりやすい看板を電柱等に設置してほしい。</p> <p>おおむね、事業推進への要望であることから、引き続き、計画目標である「利用者の利便性・安全性の向上及び防災・減災機能の強化」を推進していく。</p>

6 今後の方針等

総合的な所見	<p>国からの交付金予算の影響もあり、当初計画で予定していた事業費よりも執行額は大きく減少したものの、計画内で優先順位を付けて、一定の成果目標を達成することができた。</p> <p>係留施設等の長寿命化に向けた取組みについては、経済活動の持続性の確保という、指標には表れていない効果を実現している。</p> <p>液状化対策等を実施した海底トンネルの改良については、東日本大震災時にも供用を継続し、首都高速湾岸線が通行止めとなった状況において、市街地への唯一の連絡路としての通行機能を確保することができた。</p>
<p>今後の方針</p> <div data-bbox="132 1122 304 1189" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>次期計画 あり・なし</p> </div>	<p>海底トンネルの改良については、引続き、重点的に実施していくとともに、緊急物資輸送路の改良及び海岸保全施設の改良等を早期に実施し、大規模地震や津波高潮への対策を推進する必要がある。</p> <p>同時に老朽化対策については、長寿命化計画等に基づいて、計画的かつ効率的に実施していく必要がある。</p> <p>また、国直轄の臨港道路東扇島水江町線の整備に伴い、現道の代替機能を確保するため、臨港道路の改良を推進する必要がある。</p>